

第2回

月3000円から始める AI活用事例と3つのステップ

～「現場の改善」を最強の脱炭素に変えるロードマップ～

ZION株式会社 代表取締役 伊勢珠樹

工学博士・中小企業診断士・HACCP普及指導員

2026年9月3日

開催場所：オンライン

講師プロフィール



伊勢珠樹

【専門分野】

- 食品製造業（食品安全）
- コミュニケーション
- AI活用

第1回のポイント復習

①

脱炭素は「取引のパスポート」

ローソン等の大手小売が、CO2削減を取引継続の必須条件として仕入れ先に要求

②

AIは第4フェーズ「自律型AIエージェント」の時代

ファイルを自ら開き、データを読み取り、報告書まで作成する

③

意図せぬ脱炭素（ステルス・デカボナイゼーション）

利益のために現場のムダを削ぎ落とした結果として、CO2排出量も自然に減る

第2回：「なぜ」→「どうやって」へ。具体的なAI活用事例と月3,000円から始める3ステップ！

今日の問い：前回の「なぜ」を「どうやって」に変える

前回の問い：「AIとゼロカーボン、あなたの会社には関係ありますか？」 → 答えはYES

今日の問い

「では、具体的にどこから手をつければいい？」

「月3,000円という予算で、本当に現場は変わるのか？」

→ 今日はその問いに、実際の事例とステップで答えます

第①部

現場の痛みを解決する
AI活用事例

- 需要予測：過剰生産の根絶と廃棄ロス削減
- 予知保全：既存設備への後付けAIで省エネ
- 品質管理：歩留まり向上とリコール防止

第②部

AI活用3ステップ
月3,000円からの自動化

- Step1 チャット活用
(AIコンサルタント)
- Step2 スキル作成
(社内ノウハウの形式知化)
- Step3 AIに作業を丸投げ
(自律的業務代行)

第③部

需要予測業務の
自動化マトリックス

- Lv1→Lv4のAI活用レベル
と人間の作業シフト
- 「きれいなデータがない」
問題をAIが解消
- 戦略的再配置で利益最大化

第④部

北海道企業の優位性

- 農業AI・セコマの地域
エコシステム事例
- 今日からできる3つの行動

第①部 現場の痛みを解決するAI活用事例

勘と経験による安全在庫の積み上げが、
毎月大量の廃棄ロスを生んでいます

AIがその構造を根本から変えた事例

「安全在庫」の罠：勘と経験が生み出す過剰生産の構造

熟練者の「勘と経験」の限界

天候・突発トレンドへの対応不能

→ 欠品を恐れて“安全在庫”
を積み上げる慣習

過剰生産が生む廃棄ロスの連鎖

毎月大量の食材・仕掛品
・ 完成品を廃棄

→ コスト増大と環境負荷
を同時に引き起こす

エンボディド・カーボンの盲点

廃棄食品には栽培・輸送
・ 加工の全CO2が内包

→ 「捨てた食品の重さ
＝捨てたCO2」
という認識転換が必要

∴ 過剰生産・過剰在庫の防止＝意図せぬゼロカーボン対策の最強カード

事例① スーパーホソカワ（地方密着型スーパー）

■ AI活用：

- ・ POSデータ＋天候等の外的要因をAIで分析
- ・ 2日前に高精度発注を自動生成

■ 成果：導入直後から「3年目ベテラン
パートと同等」の予測精度を達成■ 効果：販売機会ロス防止＋廃棄ロス削減
を同時達成

事例② 惣菜メーカーA社（年商8億円規模）

■ AI活用：

- ・ 月額2～5万円の需要予測AIツールでの
スモールスタート（IT専任者不在）

■ 成果：廃棄ロスを導入前比 30%削減

■ 意義：「作られすぎる量」の適正化
＝スコープ3排出を削減

出典①：Microsoft Customer Stories <https://www.microsoft.com/en/customers/story/22489-super-hosokawa-co-ltd-azure>

出典②：Food OEM「AI需要予測の導入事例」 <https://foodoem.jp/foodoem/ai-demand-forecast/>

月数万円の投資で廃棄ロス30%削減。作りすぎる量の適正化がスコープ3（サプライチェーン排出）の最強削減カード

あなたの会社の廃棄ロスは年間いくら？

少し立ち止まって、自社の数字を思い浮かべてみてください

Q1

1か月に廃棄している食材・仕掛品・完成品の金額は？
（食材の仕入れ原価ベースで構いません）

Q2

その金額が 30% 削減されたら、年間いくらのコスト削減になりますか？

Q3

その削減額と、月2～5万円のAIツール導入費用を比べてみてください

廃棄ロスの削減は同時にスコープ3のCO2排出削減にもなる ⇔ コストを下げながら環境負荷も下げる

ポイント整理①：AI需要予測＝スコープ3の最強削減カード



勘と経験の予測には、天候変化・突発トレンドへの対応に限界がある
→ 欠品を恐れた過剰在庫・過剰生産という構造的ムダが毎月発生



クラウド型AIを使えば中小食品メーカーでも廃棄ロスを30%削減できる
→ 月数万円のスモールスタートで即効性のある ROI が得られる



廃棄ロスの削減はそのままスコープ3（サプライチェーン排出）のCO2削減になる
→ 原材料調達から焼却処理まで全工程の排出が消滅する

→ 月数万円のAI投資で、コスト削減とゼロカーボンを同時達成

1-2 予知保全

高額な新設備への買い替えは不要。
今の設備にAIセンサーを後付けするだけで、
見えないエネルギーの漏れを止められる

多くの経営者の思い込み

「省エネ＝高効率な新型ボイラーや冷却設備への買い替えが必要」

工場の電力を喰う「見えないロス」の正体

圧縮空気 エアコンプレッサー の 漏 れ からの空気漏れ

配管の小さなヒビや緩みから
圧縮空気が漏れ続け、コンプレッサーが余分な電力を使い続ける。

年間数百万円のロスになることも。

蒸 気 スチームトラップ の 漏 れ 故障による蒸気漏れ

ボイラーの蒸気配管が故障すると、気づかないまま化石燃料を空気中に捨て続ける。

毎月のガス代として静かに請求される。

過 剰 チラー・冷凍機の 冷 却 過剰稼働

実際の生産負荷に関わらず設定値で動き続ける旧来の制御。

季節・時間帯・工程の熱負荷変化への追従ができずエネルギーを無駄に消費。

なぜ防げないか：

「壊れてから直す（事後保全）」「一律に部品交換（予防保全）」では異常の早期検知ができないから
→ IoTセンサー＋AIによる予知保全でのみ、見えないロスが可視化できる

【企業設備】 老朽化した冷凍機・空圧機

導入内容

- 古い冷凍機・空圧機に振動センサー・電力監視デバイスを後付け
- AIが微細な異常（軸受振動の変化・電力パターンのズレ）を早期検知
- 設備買い替え（資本的支出）は一切なし

成果① コスト削減

施設全体の総エネルギーコスト

22% Down

年間約1億3,500万円
(902,000ドル)の経費削減を達成

成果② 生産性向上

- 突発的ダウンタイムが激減
- AIが故障の前兆を早期検知し「壊れる前に修理」が可能に
- 生産ラインの安定稼働による生産性向上も実現

出典：Oxmaint Case Study 「How Predictive Maintenance Helped a Frozen Food Manufacturer Save \$902,000」 <https://oxmaint.com/blog/predictive-maintenance-frozen-food-manufacturer>

資本的支出ゼロ。スコープ1・2の削減に即効性ある対策が後付けセンサー＋AI。

#13 ポイント整理②：既存設備のままで省エネ達成

✓ 工場の見えないエネルギーロス（空気漏れ・蒸気漏れ・過剰冷却）は
毎月の電気代・燃料費として静かに消えている

✓ 後付けセンサー＋AIで、設備買い替えなしに施設全体のコスト削減が実現できる
→ 初期費用を最小化しながら、最大のROIを生む改善活動

✓ スコープ1（燃料）・スコープ2（電力）の削減に直結する最も即効性のある対策
→ 「省エネ＝高額投資」という思い込みを今日から捨てること

次のセクション：品質管理の観点からAI活用を見ていきます

1-3 品質管理

良品を誤って捨てたり、不良品を作り直したりすることは、
材料費だけでなく電気代やガス代まで二重に捨てる最悪のムダ

AI外観検査で歩留まり向上とリコールを防止する

目視検査の限界と「過剰排除」——エネルギーの二重消費という構造的ムダ

人手不足×長時間目視→精度低下

疲れた状態での検査では

- ・ 不良品の見落とし
- ・ 良品の過剰排除

が同時に発生する

「迷ったら捨てる」が常態化

午後になると増える過剰排除

- ・ 食材コスト増大
- ・ 栽培・輸送・加工の
エネルギーの全てを
無駄にする

リコールの甚大なリスク

アレルギー情報・賞味期限の
ラベルミス

- 全品回収
- 製品全量廃棄＋再輸送
という甚大な環境負荷
と経営リスク

エネルギーの二重消費：

良品の誤廃棄＋不良品の再加工＝材料費・電力・ガスを二重に消費する最悪のムダ
→ これを防ぐのがAI外観検査とAI-OCR

ノーコード外観検査AI「MENOU」

- **特徴**：プログラミング不要。不良品画像をマウスでなぞるだけでAIが学習
- **導入**：既存コンベアに後付けカメラを設置
(初期費用100～150万円、ランニング年60万円程度)
- **効果**：24時間均一検査で良品の過剰排除が激減
歩留まり向上→材料費の実質削減

AI-OCRによるラベル自動照合（株式会社丸信）

- **機能**：食品規格書のテキストをAI-OCRで自動読取
ラベル記載内容と瞬時に照合・デジタル化
- **効果**：ヒューマンエラーをほぼゼロに
人間のダブルチェック工数を劇的に削減
- **意義**：ラベルミスによる全品廃棄を防止
→ 最大の環境負荷を未然に防ぐ

出典①：株式会社MENOU <https://menou.jp/>

出典②：株式会社丸信（AI-OCR活用事例） <https://www.marusin.co.jp/>

歩留まりの極大化＝完成品の再加工・廃棄によるエネルギー二重消費を防止。

第①部 振り返り

1-1 需要予測

廃棄ロス 30% 削減
= スコープ3の大幅削減

Scope 3 削減

1-2 予知保全

後付けセンサーで
エネルギーコスト 削減
= スコープ1（燃料）
・ スコープ2（電力）の削減

Scope 1・2 削減

1-3 品質管理

歩留まり向上で良品誤廃棄・
再加工を根絶
= エネルギーの二重消費を防止

Scope 1・2・3 削減

意図せぬ脱炭素の本質

共通点：どれも「脱炭素のためにやったのではない」こと

廃棄ロスを減らしたい / 省エネしたい / 品質を上げたい
純粋な経営課題への対応が、そのまま脱炭素につながる

第②部：AI活用の3ステップ

2-1：Step 1 AIをコンサルタントとして使う

難しいシステム構築は不要です。

まずは月額数千円で雇える「優秀なAIコンサルタント」に、
現場の悩みを打ち明けてみてください

主要3社の料金・機能、導入ステップ

ChatGPT (OpenAI)

■無料 : Free

■有料 :

Go : 8ドル / 月

Plus : 20ドル / 月

Pro : 100ドル or 200ドル / 月

Buisness : 20ドル / 月 ~ (法人)

■主な機能 :

高度な推論・ファイル読込

業務エージェント : Work

Gemini (Google)

■無料 : Free

■有料 :

AI Plus : 4.99ドル / 月

AI Pro : 19.99ドル / 月

AI Ultra : 99.99 or 199.99ドル / 月

Workspace Gemini Add-on :
14ドル / 月 ~ (法人)

■主な機能 :

Googleワークスペース連携

業務エージェント : Spark

Claude (Anthropic)

■無料 : Free (Claude Haiku)

■有料 :

Pro : 20ドル / 月

Max : 100ドル / 月 or 200ドル / 月

Team : 20ドル / 月 ~ (法人)

Enterprise : 20ドル / 月 ~ (法人)

■主な機能 :

長文読解・高精度推論

業務エージェント : Cowork

【推奨導入ステップ】

①個人アカウントで試す(経営者) → ②効果を感じたら法人アカウントで社員1名に試験導入 → ③順次拡大

3社ともに月3,000円程度で、チャットと業務エージェントの両方が使える。

#20 壁打ち相手としてのAI：現場フロー分析の実践例

パラダイムシフト：AIを「検索エンジン」ではなく「相談役（壁打ち相手）」として使う

プロンプト例

「以下に、当社の食品工場の受発注管理フローを説明します。
この作業フローの問題点を分析し、ボトルネックはどこか教えてください
・・・[フロー詳細を貼り付け]・・・」

成功事例

大手メーカーで記録作業の手順をAIに分析させた結果、データ入力の重複が判明
→ 作業時間を3割削減。ITの専門知識不要。日本語で話しかけるだけで現場のムダが見える

出典：農林水産省「食品産業DX推進の取組事例」<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sanki/soumu/attach/pdf/seisansei-147.pdf>

参考：日清食品HD「生成AIによる業務効率化実績」https://note.com/aside_2023/n/nbf1c0d16e6a9

法人向けプランなら機密データ保護を保証。中小企業も大企業と同等のセキュリティを低コストで実現

今日からAIに相談してみたいことは？

もし今日AIに相談するとしたら、どんな作業や問題を相談しますか？

受発注の手順書を整理したい

HACCPの記録フォーマットを見直したい

シフト表をもっと効率的に作りたい

新商品の説明文・チラシの文章を書きたい

トラブル対応マニュアルを作りたい

取引先へのメール文面を考えてほしい

スキルでAIに自社のやり方を覚えさせる

ベテランの頭の中にあるノウハウを、
AIに全部記憶させましょう。
現場からの質問に24時間答える
「自社専用のQAボット」が作れます

スキルとは :

マニュアル・手順書・過去事例をAIに登録

→プログラミング不要。3社共通の形式なので乗り換えても使える

スキルで作る「衛生管理QAロボット」

スキル＝AIに手順を覚えさせるファイル

- ① 手順書をふつうの日本語で書く
- ② そのファイルをAIに読み込ませる
- ③ 以後AIがその手順どおりに動く

【3社共通の標準規格】

同じスキルをCodex・Claude Code・
Antigravityのどれでも使い回せる

食品工場での活用例：衛生管理QAロボット

設定：

HACCP基準書・清掃マニュアルをスキルにして登録

使い方：

スタッフが「この機器の清掃手順を教えて」と入力
→ マニュアルに基づいた正確な手順を即回答

効果①：

リーダーへの質問対応時間が激減（24時間対応）

効果②：

ベテランと新人が同じ品質の作業を実現（標準化）

スキルの登録だけで自分専用AIが完成。ベテランの暗黙知を組織の財産に変える

スキルの基本構成——4つの部品と、その役割

スキルの中身（フォルダ構成）

```
skill-name/  
├── SKILL.md          ← 必須  
├── scripts/          ← 任意  
├── references/       ← 任意  
└── assets/           ← 任意
```

※この構成も3社共通の決まり

4つの部品の役割

SKILL.md：指示文（手順書）

新人に渡すマニュアル。必須はこれだけ

scripts/：実行できるプログラム

Excelのマクロのようなもの。

書くのはAI。自分で作って保存してくれる

references/：必要なときだけ読む資料

HACCP基準書・規格書など分厚い資料

assets/：テンプレート・画像・フォント

報告書のひな形やロゴ。見た目を揃える

必要なときに必要な分だけ読むから速い・安い・精度が落ちない。
フォルダごと渡せるから、属人化しない組織の資産になる

実例：プロンプトナビゲーターというスキルの設定と活用

プロンプトナビゲーターとは

構成：AIへの指示文（システムプロンプト）+LLMプロンプトの基本構造などをスキルとして登録

→ プロンプト構造を考える手間を省略

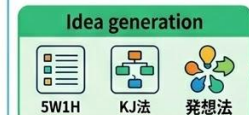
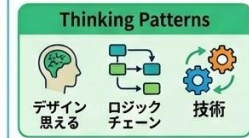
機能：AIが逆質問してくれることで、
最適なプロンプトを自動構築するスキル

「目的は？」 「対象は？」

「どんな形式で出力しますか？」

→ AIが出力したプロンプトを人間が改善する

1. テンプレートの型



2. 使用フロー

1 ユーザーインット（具材）



2 AIからの質問（対話）



3 プロンプト生成（調理）



3. 改善と活用



ポイント整理③：社内マニュアルをスキルにしてAIに持たせる



手順書をスキルにすれば、どのAIでも同じものが使い回せる
→ 手順書をふつうの日本語で書いて読み込ませるだけ



自社の情報を読み込ませるだけで自社専用QAボットが完成
→ リーダーなどの質問対応時間を削減。作業品質の標準化も可能。



ベテランの頭の中にあった暗黙知を、誰でもアクセスできる組織の財産に変える
→ 退職リスク・属人化リスクへの最も低コストな対策

AIはもう、あなたの指示を待つだけの存在ではありません。
指定したフォルダのデータを読み、集計し、報告書を作る。

「自律的に作業する部下」

Step1との違い :

AIチャット＝質問→回答（双方向）

AIエージェント＝目標を伝えるだけでAIが自律的に
ファイル操作・処理・成果物を生成（自律型）

【業務型】ブラウザやアプリで動く

フォルダのファイルを読み、集計し、報告書まで作る。

「ChatGPT Work ／ Claude Cowork ／ Gemini Spark」

いずれも月3,000円のプランに追加料金なしで含まれる

【開発型】ターミナル・専用アプリで動く（エンジニア向け）

Codex ／ Claude Code ／ Antigravity

アプリ開発や大規模な自動化に使う（#30 のミニアプリ開発で登場）

自走させる3つの設定—スキル・ルーチン・コネクタ

AIエージェント（Cowork／Work／Spark など）を動かす3要素／食品工場の異常値レポート例

1

① スキル（手順）

Step2で紹介

例：画像→異常値検出
→Excel化→報告書生成

2

② ルーチン/
スケジュール
（時間）

AIが定時に起動

例：毎朝X時/毎週月曜

3

③ コネクタ
（外部ツール）

外部ツールと接続

Drive／Gmail／Slack／Notion

例：Driveから取得
→AI処理→Slack通知

4

食品工場の組み合わせ例

- ①  毎日：写真→ Drive保存
- ②  毎週月曜7時起動
- ③  Drive→Excelで集計
- ④  Excel →週次報告書
→Drive保存
→Slack通知 

段階展開のコツ：①まず手動で動作確認 → ②安定したらルーチン化 → ③コネクタで外部ツール連携

アプリ開発仕様書プロンプト：エンジニア不在のミニアプリ開発

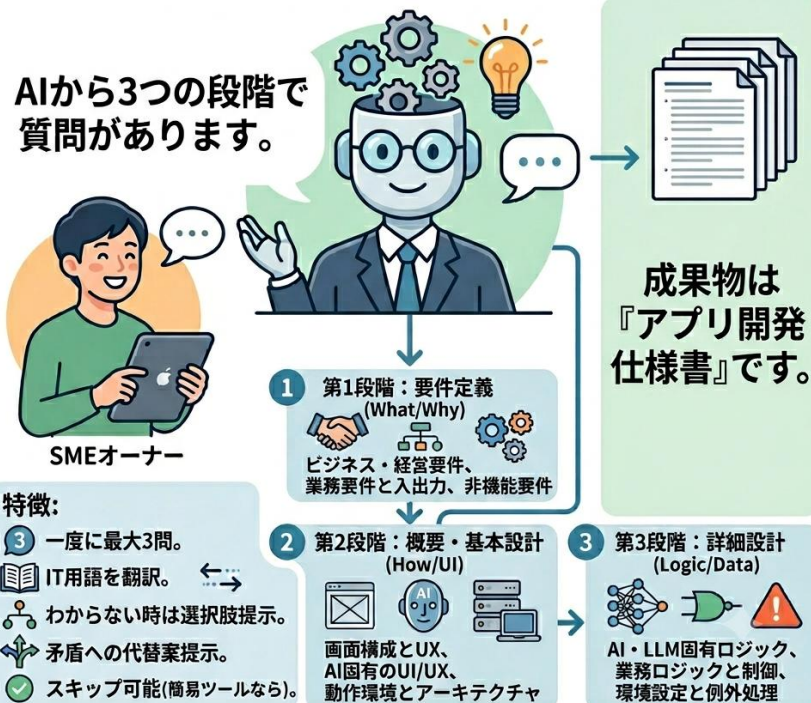
アプリ開発仕様書メタプロンプトとは

課題：自律型AIにアプリを作らせるには
「AIが理解できる詳細な仕様書」が必要。
曖昧な指示だと全然違うものが完成

解決：このスキルがユーザーに
「どんなアプリ？」「対象ユーザーは？」
「必要な機能は？」と逆質問してくれる

→ 会話のように質問に答えるだけで、
AIがコードを書けるレベルの仕様書が完成

AIがあなたと話して仕様書を作る！ アプリ開発仕様書プロンプト



Step 1

チャットAI

AIをコンサルタント
として使う

ChatGPT / Claude等に
現場フローの悩みを入力
→ ボトルネックを即抽出

Step 2

スキル

手順をスキル化して
ノウハウを形式知化

自社マニュアルをスキルに
するだけで完成
→ 24時間Q&Aボット稼働

Step 3

AIエージェント

AIに作業を
丸投げする

一度の日本語指示で
画像読取→データ化→
Excel報告書を全自動生成

Step1→2→3の順で段階的に導入。小さく始めて効果を積み重ねるのがAI導入で失敗しないコツ

本質的な問い

「予測以前に、そもそもAIに読ませるきれいなデータがない」

需要予測AIの導入で最初に直面するのは「データ整備」の問題。

→ 紙の発注書・手書き記録・Excel散在・FAXの写真.....

これらをAIが読める形に、AIで整えるのが自動化の第一歩です

#33 Lv0→Lv2：人手中心から「AI補助」段階の全体像

Lv0：完全人手

①データ収集

手書き・目視で集計

②データ整理

Excelで整理（人）

③需要予測

勘と経験で予測（人）

④発注書作成

手書き/電話発注（人）

Lv1：Excel活用

①データ収集

デジタル入力に統一（人）

②データ整理

Excel自動集計（半自動）

③需要予測

Excelデータで傾向把握（AI×人）

④発注書作成

発注フォーマット化（人）

Lv2：AI予測補助

①データ収集

データ入力統一継続

②データ整理

ExcelをAIで自動整理

③需要予測

AI予測モデルで自動予測

④発注書作成

担当者が確認・承認（人）

【ポイント】Lv1はExcelの徹底。Lv2はAI予測を「人間の確認込みで」使い始める。どちらも月3,000円程度で実現可能

Lv3 : AIエージェントによる「ほぼ全自動」——2026年の最前線

Lv3は「今すぐ実践できる最前線」——AIエージェントで全工程をほぼ自動化

Lv3の4工程（全自動）

- ① データ収集 : AIが紙伝票・FAXを自動でデジタル化
- ② データ整理 : AIがExcel/CSVを自動クレンジング
- ③ 需要予測 : AIが統計モデル＋外部要因で自動予測
- ④ 発注書作成 : AIが承認待ちのドラフトを自動生成

実現ツール

- AIエージェント & ディープリサーチ :
Claude CoworkやClaude Code / OpenAI Codex / Antigravity
Deep Research (Gemini, ChatGPTなどの機能)
- 予測 : AIが処理手順と予測モデルのPythonコードを生成
→ 自社データを即分析
→ スキルとして一連の作業を登録
(繰り返し使用可)

Lv3は今すぐ実践可能。AIエージェントが全工程を自律処理→管理者は「確認・承認」だけ。

#35 Lv4 : POSシステム・IoT連携による完全自動化（参考）

※Lv4は大規模投資が必要な将来像。中小企業の現実的なゴールはLv3。

POS連携

POSシステムから販売実績が
リアルタイムで自動連携
→ 手入力ゼロ・遅延ゼロ

IoT・センサー連携

温度センサー・ロードセル
が在庫状況をリアルタイム
送信
→ 欠品・廃棄を即自動検知

完全自律発注

AIが天気・イベント・SNS等
を自律的に取り込んで予測
→ 発注
→ 人間の確認なしで完結
※人間はシステムが適切に稼働し
ているかの管理役を担う。

中小企業の現実的なゴール：Lv2（今月～3ヶ月）→ Lv3（3ヶ月～1年）の段階的移行。

Lv4は大手ECや外食チェーンの話。Lv3でも十分に廃棄ロス20～30%削減が期待できます

#36 あなたの会社の需要予測は今のレベルですか？

自社の需要予測・発注管理の現状レベルを、下の基準で判断してみてください

Lv0	まだすべて手書き・目視・記憶で管理している
Lv1	Excelで集計しているが、予測は担当者の経験に頼っている
Lv2	AIツールで分析・需要予測した結果を参考にしている
Lv3	AIエージェントやディープリサーチで、一部～全工程を自動化できている
Lv4	POSや外部データとAIを連携して自律的に発注まで完結している

→ 最初のゴールは「まずLv2に上げること」。データ整備から始めましょう

AIを使わない処理も、AIエージェントで自分専用アプリにできる

AIエージェントは「アプリを作る道具」としても使える

外注なし／ローカルPC完結（社外にデータが出ない）／改良も自由自在

自社の業務運用に完全フィットしたアプリが、自分で作れる

AIは不要な単純処理（集計・帳票・原価計算）こそ、自作アプリの効果が大きい

→ 例：自社レシピ+原材料単価マスタを入れるだけで、原価・原価率・粗利が自動再計算されるアプリ

4ステップで個人用アプリを自作！

① AIチャット入力

ChatGPT/Claudeに「プロンプト」を渡し、解決したい業務課題を伝える
→ 当日配布資料“アプリ開発仕様書プロンプト”を活用

② アプリ仕様書生成

対話で3段階の仕様書が完成：①要件定義 ②UI設計 ③ロジック設計
→ Markdown形式でそのまま出力

③ AIエージェント実装

Claude Code/Codex /AntigravityなどのAIエージェントに仕様書を渡す
→ コーディング・テスト・修正まで自動実行

④ ローカルPC運用

ショートカットから5秒起動。アプリは社外送信なしの完全ローカル動作
→ Excel運用などから自社専用アプリへスムーズに移行できる

※簡単なアプリは自分で作って使う時代。ITエンジニアに依頼するのは、高度なアプリ開発の時でよい！

第③部 振り返り：AIで「作業」から「マネジメント」へシフトする

データ整備が 自動化の土台

- Lv0→Lv1：データ整備優先
- きれいなデータなしに
AIは動かない

Lv3が中小企業の 現実的ゴール

- 月3,000円のAIエージェント
- ほぼ全工程を自動化できる
時代に

AIエージェントは アプリも作れる

- AIは、PC操作も可能
- 単純な定型業務も
自分専用アプリで自動化

AIエージェントを使い倒し、業務自動化と自作アプリの両輪で食品産業のゼロカーボンを牽引する

第④部

4-1：北海道の食品産業がAI活用で優位に立てる理由

北海道だからこそ“AI×ゼロカーボン戦略”

北海道の先進的テクノロジー受容の土壌

北海道は農業・食品分野でのIT活用を、積極的に進めてきた地域です。

広大な農地での精密農業・スマート農業を先進してきた文化的背景が、AI活用の心理的なインフラになっています



北海道には「食品産業の宝庫」×「開拓精神」→「AI時代を先導する使命」がある！

北海道の先進事例：農業AI「xarvio」とセコマの地産地消モデル

農業AI「xarvio」：北海道農業の収量最適化

概要： BASF社の農業AIプラットフォーム。衛星データ・気象・土壌分析でAIが施肥・農薬散布を最適提案

北海道での実績：

小麦・でんぷんとウモロコシ等で収量10～15%向上。
農薬・化学肥料の使用量削減でCO₂排出を抑制

ゼロカーボンとの関係：

- 原材料段階でのScope3排出を削減
→食品製造工場のカーボンフットプリントを
川上から改善

セコマ：道産食材×AIで地産地消を実現

概要： セコマは道産食材使用率85%以上を維持しながら
廃棄ロス削減・輸送距離短縮によるCO₂を削減

AI活用： 天候・イベント・季節性をAIで予測し、
道内工場に生産量を事前指示
→廃棄ロスを最小化

中小企業への示唆

- 「地元産→地元加工→地元消費」サイクルは輸送の
Scope3排出の大幅削減。

3つの宿題：アクションで変わろう！

宿題①

AIエージェントのアプリを入れる

ChatGPT・Claude・Gemini のどれかを有料プランにして、パソコンにアプリを入れる（Claudeなら Cowork）

宿題②

調べたいことを1つ、HTML資料にしましめらう

「〇〇について調べて、社内説明用のHTML資料にして」と頼むだけ
→ ブラウザで開ける資料ができあがる

宿題③

その工程を「スキルにして」と頼む

「いまの調査からHTML作成までの手順をスキルにして」
→ 次回から一言で、同じ品質の資料が作れる

第3回予告

テーマ：

実践ワークショップ

～手を動かしてAIを動かす～

内容：

- ・ プロンプトナビゲーター設定
 - ・ 戦略立案→調査→資料作成
 - ・ 選べる3コース実習
- スキル作成／業務棚卸し／アプリ仕様書

「今日学んだことを、明日一つだけ試してみてください。

AIは試してみた人だけが手に入れられる武器です」